

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまにはご家族おそろいで、よいお正月をお迎えのこととお喜び申し上げます。どうか、本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、早いもので市長に就任して10カ月がたちました。ご心配をいただいている財政再建、地域医療、水道代金、地域の活性化など、篠山市あげて一生懸命に取り組んでまいりましたが、まだまだこれからです。

今年は何としても篠山再生に向け、大きな前進の年にしていかねばと誓っています。そのためには、大変厳しいことをひとつひとつ、山登りのような1年と覚悟して取り組んでいきますので、よろしくご指導、ご意見をいただきますようお願い申し上げます。

主な取り組み内容は、

(1) 財政再建  
篠山再生市民会議からの答申を尊重し、市役所内で検討を進め、6月ごろには概要が示せるように取り組みます。

(2) 地域医療  
「兵庫医科大学篠山病院」の存続に精いっぱい努めていますが、きちんと解決し、「岡本病院」にしき記念病院」そして、市医師会と連携した安心できる地域医療体制をつくりま

(3) 「ふるさと篠山へ帰ろう住もう運動」「ふるさと応援団」  
若者たちの定住、子育てしやすい

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまには、平成20年のすがすがしい新春をご家族おそろいでお迎えのこと、謹んでお喜びを申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、新しく酒井市長が就任され、厳しい財政環境のもと、篠山再生元年と位置づけ、行財政改革の推進に積極的な姿勢で臨まれているところで、わたしども議会といたしましても、この難局をいかに乗り越えていくかについて、行財政改革調査研究会を立ち上げ、各分野における事業内容を精査しながら議論を深めているところであります。行政改革には当然のことながら痛みが伴います。その具現化には、将来にわたる財政収支の見通しを十分に精査し、効率的な行政運営と市民サービスの確保を基本にしなから、未来に輝く元気な篠山市の創造をビジョンに掲げ、改革を進めなければならぬと思っております。

ところで、議会では、再三にわたり、議員定数問題について議論を重ね、昨年8月末に現行定数を維持するという結論を見いだしたところであります。しかし、その後の市民の皆さまの声や取り巻く環境の変化から、市民の皆さまに信頼される議会を目指し、12月定例会において、定数を2人削減し20人とする条例を提案し、賛成多数で可決決定いたしました。定数減となりましても、首長との緊張関係を保ち、市の公的な意思を決

環境づくり、定年後のUターンや田舎ぐらしを市民運動として、「ふるさと篠山へ帰ろう住もう運動」を推進していくとともに、篠山市出身者の皆さんや篠山ファンを集めた「ふるさと応援団」をつくり、「ふるさと納税」を呼びかけます。

(4) 築城400年祭  
来年の丹波篠山築城400年に向けて市民参画で実行委員会を立ち上げ、準備を進めます。これを明るく希望として篠山の伝統文化や景観をはじめ、その魅力を見つめ直し、これからのまちづくりにつなげるものとします。

(5) 誰にもわかりやすい市政  
毎月10日の「こんにちは市長室」や、「ふるさといちばん会議」をはじめとして、常に市民の皆さまの声に耳を傾けます。

以上、これらがお正月の夢に終わらないように。市民の皆さまにとつて、よいお年でありますようにお祈り申し上げます。

# 謹賀

# 新年



篠山再生に向け、前進!  
篠山市長 酒井隆明



信頼される議会を目指して  
篠山市議会議長 小林正典

2>15 特集  
16>17 街のReport  
18>23 まちの話題  
24>25 ちやまホール  
26>27 イベント  
28>31 Living Information Smile





からは、市長さん・教育長さんに個人の課題についてお答えいただきましたと思います。まず、西山さんから、明るい福祉に取り組んでほしいというご希望がありました。それについてのお話を聞きたいと思います。

**市長** 篠山では、障害者や高齢者の皆さんが一緒になったグループがたくさんできています。そこには、いろいろなボランティアの方々がかかわられています。法律で十分な支援ができないなど、現実的に厳しい問題がありますが、市民の皆さんと一緒に取り組む方向に進んでいるのではないかと思います。

**西** 続いて、まさに団塊の世代の細見さんからお話をいただきました。伺もないぜいたく、ゆっくりした時間

が流れる篠山。不便をせいたくというPRをもっとすればいいのではないかとこのことなんです。

**市長** 篠山のいろいろな場所を映画で取り上げてもらい、PRしていくために、篠山の良さを大切にしながら、その良さを生かせる取り組みを進めていきたいと思っています。

**西** 子育てまっただ中の高橋さんなんです。自然の中で子育てできるといって大変喜んでいらつしゃいます。しかし、医療に不安があるということなんです。

**市長** 篠山市の人口が減少し、高齢化している中で、高橋さんのように篠山で子育てをされている若い皆さんが、いかに定住していただけるかが一番の課題です。今後、篠山に暮らしていただくためにも、篠山の良いところをPRしていきたいと思っています。医療についても、兵庫医科大学篠山病院に残ってもらえるよう努力しているところです。

**西** ササユリを広めるために試行錯誤の研究をされている石田さんです。

子育てしている方たちが都会から帰ってきて、子育てしやすいように教育や医療の面などの環境づくりをしてほしいと思います。子どもが病気になった場合、ちょっとした風邪であればお医者さんに診ていただくんですけど、もし、ひどくなつた場合にこの病院に行けばいいんだらうと、最近子どもが風邪をこじらせたときに思いました。市内の病院がなかなか思い浮かばず、実際の病院に行かなければならなかつたことを痛感したところです。特に、この点を力を入れていただければうれしいです。

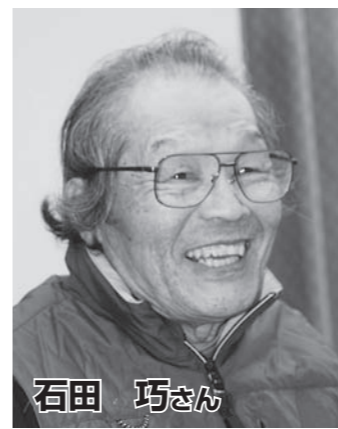
**石田** わたしは、ササユリの栽培に取り組んでいます。しかし、市内に自生するササユリは、山すそが手入れされなくなつたこと、心ない方たちによる乱獲、ウイルスなどが原因で年々減少しています。そこで、平成16年にササユリが市の花に制定されたことを受けて、これは何とかしなければならぬと思い、ササユリの研究に本格的に取り組むことにしました。ササユリの本を読んだり、栽培されているところを全国見回つたりしました。そして、普通の土で栽培すると根が腐るからといわれ、園芸店にいき改良土を購入して、土の量をいろいろと加減しながら、50鉢ほど試しています。また、自然に生えているものだから、自然と生える環境を自分たちが作ってやらぬといけぬと考える、昨年から苗を皆



谷口昌行さん

さんに配布し、植えていただくようにしています。今年も苗を皆さんに配布したいと思っています。将来は、篠山の商店街でササユリ1店1輪を咲かせてみたいと思っています。

**大西** わたしは、「丹波篠山楽空間」という、よきこいチームで活動しています。チームは、小さな子どもたちから50歳代までの方たちがいる大きなファミリーチームです。依頼があれば市内はもちろん、神戸や大阪それから夏には北海道と、各地の祭りやイベントに参加することがあります。イベントなどでは、丹波篠山という看板を掲げて市外に出ることが多いのですが、お客さんたちから「丹波篠山なんや」とよく声を掛けてもらうことがあります。また、曲の中でデカンショ節を取り入れていますが、お客さんがデカンショ節を口ずさんでくれることがよくあります。その反応をみると、すごくうれしい気持ちになります。それがチームの活動源になっているんだと思います。ところで、チームの活動は



石田 巧さん

今年で9年目になり、わたしも高校1年生のときから始めています。でも、就職や心境の変化などがあって、続けられない方たちがたくさんいます。わたしと同じ世代には、篠山に就職して地元に残って活動を続けていきたいという、強い気持ちをもつた方がたくさんいます。それは、いろいろな世代の方たちとふれ合ったりとが、お祭りやイベントに呼んでもらうてお客さんに見てもらったりすることがあるからこそ、篠山っていいなあと感じることができるとおもいます。メンバーも篠山が大好きな方ばかりなので、今後も自分たちの活動で篠山を大いに盛り上げていきたいと思っています。

**谷口** 自分が健康でなければ何もできないと思います。そこで、わたしは自分の体を第一にということ、篠山市が行っている「介護予防いきいきサポーター養成講座」を受講しています。体が丈夫でしたら何でもできますので、高齢化社会の中で、頑張っている方たち、不自由な方たちの杖



大西理香さん

が、ササユリが年々減ってきているということですがどうですか。

**教育長** 石田さんがおっしゃられたことで、商店街の皆さんの協力が得られれば、商店街の一角にササユリのポットを置いて花を咲かせてほしいということ是非常に良いことだと思えます。そして、石田さんにササユリのマイスターになっていただき、開花を見守ってほしいですね。

**西** 力強いお話をいただいた大西さん。よきこいを踊るために地元で就職され、「丹波篠山」と聞く反応してしまつと聞いてどうですか。

**市長** 楽空間の皆さんは、みんな踊りが好きで、とても地元を大事にされ、大変心強いです。踊りのレベルも格段に高く、迫力もあり、子どもたちから50歳代の方たちが一緒になつてされていることは、地域づくりにそのものではないかと思えます。

**西** 続いて谷口さんなんです。介護予防いきいきサポーター養成講座を受講されたということなんです。自分の体が元気でなければ介



片木美帆さん

になりたいたいという思いで、一生懸命に取り組んでいます。介護予防をはじめ健康体操、口や歯の予防などの大事さはしみじみと感じています。で、これからは地域の会合やいろいろなところに参加して、その大切さを広めていきたいと思っています。

また、わたしは昨年設立しました丹波流酒造り唄保存会にも参加し、丹波流酒造り唄を保存継承しよう、味まつりやデカンショ祭などで酒唄を披露しています。今後も元氣よく頑張っていきたいと思っています。

**片木** わたしは、昨年10月に日置小学校の児童会の書記になり、5人の児童会の方たちと楽しい会を開き、みんなを盛り上げようと頑張っています。また、初まったばかりなので、やることはあまりないけれど、「日置っ子だより」で、学校の出来事やなどなどを書いて、みんなが楽しめるようにしています。また、昨年わたしの家に米国・ワラワラ市から大人2人の方がホームステイしてくれました。おみやげもたくさんもらい、いろいろなところにも行き、とても楽しかったです。今は、ワラワラ市の方たちと手紙やメールで、いろいろなことを教え合っています。これからは英語の勉強を頑張る、大きくなつたら米国に行つていっぱい友達をつくりたいです。

**西** ありがとうございます。皆さんからお話をうかがいましたが、いろいろなお話ができました。こ

護はできないと、自分も鍛えられ、人の杖になりたいと頑張られています。

**市長** 篠山市の高齢化率は高いといわれますが、他市と比べて皆さん大変お元氣だと思えます。元氣なうちに将来の予防をされている谷口さんが、目標をもつて頑張られていることは、大変すばらしいと思います。

**西** 片木さんは、日置小学校を盛り上げる1人として頑張られています。小学校の児童会で書記を務められ、昨年10月に訪問されたワラワラ市民訪問団のホストファミリーとしても活動されました。

**教育長** 昔、故河合肇雄先生から、「人が生きていくつねには夢が大事ですよ。夢と辛抱ですよ。夢がある人は成長します」と言われたことを思い出しました。片木さんも夢をもって、その夢に向かって毎日積み重ね努力してほしいと思います。高校生になれば米国に行く機会が巡ってくると思いますので、そのときは手を挙げてほしいと思います。

**西** 年男・年女の7人皆さんから新年の抱負や魅力あるまちづくりについて、その思いを聞かせていただきました。本日は本当にありがとうございます。

今回の新春なんでもトークは、2時間にわたるものでした。紙面の関係で内容を縮小しましたこと、参加者の皆さんに深くおわび申し上げます。

今年で9年目になり、わたしも高校1年生のときから始めています。でも、就職や心境の変化などがあって、続けられない方たちがたくさんいます。わたしと同じ世代には、篠山に就職して地元に残って活動を続けていきたいという、強い気持ちをもつた方がたくさんいます。それは、いろいろな世代の方たちとふれ合ったりとが、お祭りやイベントに呼んでもらうてお客さんに見てもらったりすることがあるからこそ、篠山っていいなあと感じることができるとおもいます。メンバーも篠山が大好きな方ばかりなので、今後も自分たちの活動で篠山を大いに盛り上げていきたいと思っています。

**谷口** 自分が健康でなければ何もできないと思います。そこで、わたしは自分の体を第一にということ、篠山市が行っている「介護予防いきいきサポーター養成講座」を受講しています。体が丈夫でしたら何でもできますので、高齢化社会の中で、頑張っている方たち、不自由な方たちの杖

になりたいたいという思いで、一生懸命に取り組んでいます。介護予防をはじめ健康体操、口や歯の予防などの大事さはしみじみと感じています。で、これからは地域の会合やいろいろなところに参加して、その大切さを広めていきたいと思っています。

また、わたしは昨年設立しました丹波流酒造り唄保存会にも参加し、丹波流酒造り唄を保存継承しよう、味まつりやデカンショ祭などで酒唄を披露しています。今後も元氣よく頑張っていきたいと思っています。

**片木** わたしは、昨年10月に日置小学校の児童会の書記になり、5人の児童会の方たちと楽しい会を開き、みんなを盛り上げようと頑張っています。また、初まったばかりなので、やることはあまりないけれど、「日置っ子だより」で、学校の出来事やなどなどを書いて、みんなが楽しめるようにしています。また、昨年わたしの家に米国・ワラワラ市から大人2人の方がホームステイしてくれました。おみやげもたくさんもらい、いろいろなところにも行き、とても楽しかったです。今は、ワラワラ市の方たちと手紙やメールで、いろいろなことを教え合っています。これからは英語の勉強を頑張る、大きくなつたら米国に行つていっぱい友達をつくりたいです。

**西** ありがとうございます。皆さんからお話をうかがいましたが、いろいろなお話ができました。こ

今年で9年目になり、わたしも高校1年生のときから始めています。でも、就職や心境の変化などがあって、続けられない方たちがたくさんいます。わたしと同じ世代には、篠山に就職して地元に残って活動を続けていきたいという、強い気持ちをもつた方がたくさんいます。それは、いろいろな世代の方たちとふれ合ったりとが、お祭りやイベントに呼んでもらうてお客さんに見てもらったりすることがあるからこそ、篠山っていいなあと感じることができるとおもいます。メンバーも篠山が大好きな方ばかりなので、今後も自分たちの活動で篠山を大いに盛り上げていきたいと思っています。

**谷口** 自分が健康でなければ何もできないと思います。そこで、わたしは自分の体を第一にということ、篠山市が行っている「介護予防いきいきサポーター養成講座」を受講しています。体が丈夫でしたら何でもできますので、高齢化社会の中で、頑張っている方たち、不自由な方たちの杖

になりたいたいという思いで、一生懸命に取り組んでいます。介護予防をはじめ健康体操、口や歯の予防などの大事さはしみじみと感じています。で、これからは地域の会合やいろいろなところに参加して、その大切さを広めていきたいと思っています。

また、わたしは昨年設立しました丹波流酒造り唄保存会にも参加し、丹波流酒造り唄を保存継承しよう、味まつりやデカンショ祭などで酒唄を披露しています。今後も元氣よく頑張っていきたいと思っています。

**片木** わたしは、昨年10月に日置小学校の児童会の書記になり、5人の児童会の方たちと楽しい会を開き、みんなを盛り上げようと頑張っています。また、初まったばかりなので、やることはあまりないけれど、「日置っ子だより」で、学校の出来事やなどなどを書いて、みんなが楽しめるようにしています。また、昨年わたしの家に米国・ワラワラ市から大人2人の方がホームステイしてくれました。おみやげもたくさんもらい、いろいろなところにも行き、とても楽しかったです。今は、ワラワラ市の方たちと手紙やメールで、いろいろなことを教え合っています。これからは英語の勉強を頑張る、大きくなつたら米国に行つていっぱい友達をつくりたいです。

**西** ありがとうございます。皆さんからお話をうかがいましたが、いろいろなお話ができました。こ

今年で9年目になり、わたしも高校1年生のときから始めています。でも、就職や心境の変化などがあって、続けられない方たちがたくさんいます。わたしと同じ世代には、篠山に就職して地元に残って活動を続けていきたいという、強い気持ちをもつた方がたくさんいます。それは、いろいろな世代の方たちとふれ合ったりとが、お祭りやイベントに呼んでもらうてお客さんに見てもらったりすることがあるからこそ、篠山っていいなあと感じることができるとおもいます。メンバーも篠山が大好きな方ばかりなので、今後も自分たちの活動で篠山を大いに盛り上げていきたいと思っています。

**谷口** 自分が健康でなければ何もできないと思います。そこで、わたしは自分の体を第一にということ、篠山市が行っている「介護予防いきいきサポーター養成講座」を受講しています。体が丈夫でしたら何でもできますので、高齢化社会の中で、頑張っている方たち、不自由な方たちの杖

今年で9年目になり、わたしも高校1年生のときから始めています。でも、就職や心境の変化などがあって、続けられない方たちがたくさんいます。わたしと同じ世代には、篠山に就職して地元に残って活動を続けていきたいという、強い気持ちをもつた方がたくさんいます。それは、いろいろな世代の方たちとふれ合ったりとが、お祭りやイベントに呼んでもらうてお客さんに見てもらったりすることがあるからこそ、篠山っていいなあと感じることができるとおもいます。メンバーも篠山が大好きな方ばかりなので、今後も自分たちの活動で篠山を大いに盛り上げていきたいと思っています。

**谷口** 自分が健康でなければ何もできないと思います。そこで、わたしは自分の体を第一にということ、篠山市が行っている「介護予防いきいきサポーター養成講座」を受講しています。体が丈夫でしたら何でもできますので、高齢化社会の中で、頑張っている方たち、不自由な方たちの杖

表2. 篠山再生会議市民委員名簿

(任期：平成19年7月31日からの2年間)

議長	長峯 純一	(学識経験者)
副議長	酒井加世子	(市民委員)
委員	松家 次郎	(学識経験者)
委員	菟原 元彦	(市民委員)
委員	圓増 亮介	(市民委員)
委員	渋谷 及子	(市民委員)
委員	杉尾 吉弘	(市民委員)
委員	杉田 正見	(市民委員)
委員	園田 美子	(市民委員)
委員	中川 政和	(市民委員)
委員	林 茂	(市民委員)
委員	溝畑 好美	(市民委員)
委員	森本 長寿	(市民委員)
委員	山崎 玄夫	(市民委員)
委員	金野 幸雄	(副市長)

50音順・敬称略

表1. 篠山再生計画イメージ図

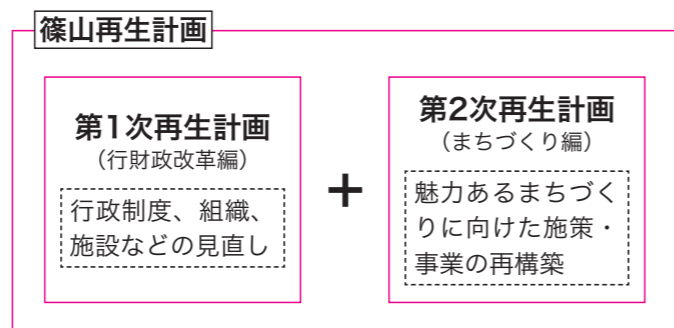


表3. 「篠山再生市民会議」第1次答申までの記録

- 7月31日 第1回（諮問、篠山再生計画の策定、市民会議の進め方）
- 8月10日 第2回（改革項目の提案審議、市民会議の進め方）
- 8月24日 第3回（人件費・職員数の状況、施設の維持管理、財政状況・収支見通し報告）
- 9月 5日 第4回（人件費・職員数の状況、施設の維持管理、補助金）
- 9月14日 第5回（人件費・職員数の状況、施設の維持管理、補助金）
- 9月27日 第6回（歳出削減試案審議、補助金・施設の分科会について審議）
- 10月12日 第7回（歳出削減試案の修正案審議、第1次答申のまとめ方）
- 10月25日 第8回（第1次答申案審議）



篠山再生市民会議議長の長峯純一さん(写真中央)と同副議長の酒井加世子さん(写真左)から、酒井市長に第1次答申を手渡されました

# 篠山再生計画第1次答申を提出

## 篠山再生計画の策定に向けて

酒井隆明市長の諮問を受け、今年の7月に立ち上げられた篠山再生市民会議(長峯純一議長)。初会合以後、月2回のペースで議論を深め、8回におよぶ会議を経て、11月2日には長峯議長が酒井市長に「篠山再生計画(行財政改革編)第1次答申」を手渡しました。

今回は、篠山再生市民会議のこれまでの取り組みと、行財政改革に関する第1次答申について、その概要をお知らせします。

■問い合わせ 政策部企画課 ☎5522・5106

### 篠山再生市民会議が設立

篠山市が今年の5月に発表した市の財政収支見通し。この見通しでは、平成20年度から年間約13億円の程度の財源不足が発生していくことが見込まれました。さらに、この収支不足を補うために取り崩しを行ってきた財政調整基金(家計での貯金)が平成21年度に枯渇。平成23年度にはすべての基金が底を突くことになり、予算を組めない危機的な状況になることが予想されました。

このため、市は財政再建に向けて、平成20年度から平成22年度までに行う主な施策の内容などを「篠山再生計画(表1参照)」として、策定することになりました。そこで、7月に市民の皆さんの目線で検討いただく諮問機関「篠山再生市民会議」を立ち上げ、持続可能な行財政運営と地域経済活性化の実現に向けて取り組むことになりました。

同会議は、市民委員12人(公募委員9人を含む)と学識経験者2人、行財政関係者1人の計15人(表2参照)で

構成。議長に長峯純一さん、副議長に酒井加世子さんが選任され、2年にわたる市民会議が開始しました。

### 第1次答申を提出

「篠山再生市民会議」は、月2回のペースで会議が重ねられ、人件費の削減を中心に協議。これまで8回にわたり議論が深められました(表3参照)。そして、11月2日には「篠山再生計画(行財政改革編)第1次答申」をまとめ、酒井市長に提出されました。

答申では、兵庫医科大学篠山病院への補助金や水道事業対策などの新たな歳出増加要因が発生したことを受け、財政再建には年間15億円の削減が必要として、職員給与の削減をはじめとした7項目の歳出削減案を提案。これらの対策をすべて行うことで、基金が枯渇せず、平成27年度には財政収支が黒字に転換できるとされています。市ではこの答申を受け、可能な施策から来年度予算に反映させていきます。

### 今後の取り組み

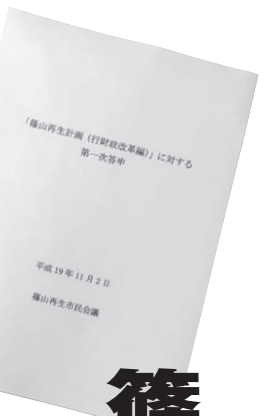
さて、答申の提出以後、「篠山再生市民会議」は、11月15日(第9回)に補助金や施設維持管理の課題を個別に議論していくため、分科会を開催。12月13日(第10回)には、篠山市自治会長の皆さんとの意見交換会が行

### 次回会議の予定

●第11回篠山再生市民会議  
 とき 平成20年1月22日(火)13時30分  
 ところ 丹南健康福祉センター  
 内容 全体会、分科会  
 ※傍聴受け付け 13時~13時20分



12月13日には、市自治会長と意見交換を行いました



# 篠山再生計画(行財政改革編)に対する第1次答申内容

篠山再生市民会議で取りまとめられた「篠山再生計画第1次答申」  
ここでは、その概要を抜粋してお知らせします。

## 合併後の財政状況と財政悪化の要因

篠山市は、合併特例法が用意した財政支援策を最大限活用して、旧多紀郡4町が課題にしてきた都市基盤整備を実現しようとしてきました。しかし、人口6万人構想を始め、税収の見通しなど、合併計画が甘い前提の上に乗っていたことが明らかとなりました。

その合併特例法で財政支援策の目玉とされたのは、合併後のまちづくりに向けた事業に対する合併特例債という特別の地方債。篠山市はこの合併特例債を最大限受けて合併直後の

数年間という短期間に、社会資本整備を集中して行い、平成18年度までに総額約227億円を費やしました。さらに、この間、国の景気対策に伴う地方公共事業と下水道整備などへの負担や地方債の発行が重なりました。その結果、地方債残高も普通会計分で560億円規模、特別会計・公営企業会計を含めると1,100億円規模にまで膨らんだのです。

かわらず、平成19年5月に公表の財政収支見通しには、4年後の平成23年度に財政破たんするというシナリオが描かれました。これは、従来の財政計画の立て方が、第1に歳入面・歳出面でも、基本的に「伸び率方式」で将来値を予測。第2に収支不足が生じれば、それを相殺するように行政改革で歳出が削減される前提で計画が作成され、つじつまを合わせることで、どれだけ収支不足が生じても覆い隠してきた面があります。

しかし、問題なのは合併直後の短期間に、身の丈を超えた巨額の公共事業を一気に実施したこと。仮にすべての事業が必要としても、なぜ優先順位をつけて、1つ1つ実行するといった段階を踏むことができなかったのか悔やまれます。そこであれば、合併から10年を経た一時期に公債費が集中することもなかったし、合併後に地方交付税が削減され、財政の見通しが狂った際にも修正する余地があったのではないかと思います。

## 財政破たんから財政再生へ

平成19年5月の財政収支見通しによれば、今後、市の単年度の財政収支は赤字状態が続きます。当面はその赤字を財政調整基金などで穴埋めできるとしても、4年後の平成23年度には基金が枯渇。財政破たん状態に陥る可能性があり、単年度で13億円から15億円規模の赤字が毎年続く

こととなります。ところが、この財政収支見通し公表以降も、新たな歳出増加要因が登場しました。見通しには、兵庫医科大学篠山病院への毎年度の補助金(年1億5千万円)や、平成21年度の第1次改修工事への市負担金(5億円)が盛り込まれていました。しか

し、この改修工事への市負担金は9億円へ増額。さらに、第2次改修工事への着手が平成25年度に可能となるよう努力し、その場合の市負担金を6億円程度と見込むことになりました。さらに、水道事業会計が抱える膨大な債務残高と単年度収支の赤字間

題が発生。市の水道料金は現在、県内で最高水準となり、平成18年度決算で約2.1億円の赤字を計上しました。この事態に国は、水道料金が県内平均よりも高い自治体に対して、その差額の半分を地方交付税で補填する制度(水道高料金対策)の導入を決定。篠山市も制度に乗ることを決

めました。この制度を利用すれば、地方交付税は増額しますが、地方交付税と同額(赤字の半額)を一般財源から負担する必要があります。これで、水道料金の値上げは抑えることができますが、毎年3億円ほど(実質は半分の1億5千万円ほど)、一般財源の負担が増えることとなります。また、財政収支見通しでは、平成

20年から27年度の8年間、年平均で15億1千万円の収支不足が発生すると予測されています。このことから、1年当たりおおよそ15億円の歳出を削減しなければ、財政破たんを回避することはできませんし、財政は持続可能にならないといえます。平成20年から27年度の一般財源はおおよそ160億円規模。そこに公

債費が約50億円、下水道事業特別会計における公債費への繰出金が約25億円あり、手をつけることでできない経費が合計約75億円もあります。これは、歳出削減対象の一般財源が実質85億円しかなく、そこから15億円という目標額を削減するため、20%近い歳出削減をしなければならぬことを意味しています。

## 財政再建に向けての歳出削減案

① **400人体制への職員数の削減**  
篠山市がこれまで検討してきた職員数削減案は、現在59歳の勤続退職年齢を2歳引き下げて57歳とし、平成19年度で561人の職員を平成28年度にかけて461人まで減少させるというものです。しかし、この削減計画をさらに進め、将来の職員定数を400人体制とし、そこに到達するまでの間、新規職員の採用数を毎年3人にするを提案します。

② **職員給与の20%削減**  
職員給与を本俸あるいは期末・勤

勉手当(ボーナス)の削減を通じて、年収の20%相当を削減する案を提案

します。年収の20%というのは、期末・勤勉手当の削減で対応する場合、現在の4.45カ月分を1.0カ月分に削減することで達せられます。

③ **50歳昇給停止**  
これまでの行政改革で、賃金力一

つはすでに50歳を過ぎたところではフラット化し、賃金上昇はほとんどありません。しかし、見込める歳出効果額がわずかたとしても、緊急対策の一つとして提案します。

④ **補助金の10%削減**  
合併後の第1次・第2次行政改革

で、すでに30%の削減を実施してきました。しかし、市民・事業者の皆さんも負担(痛み)の一部を共有することが必要であるという認識のもと、補助金の一般財源負担分の5億1千万円を対象に平成21年度から10%削減することを提案します。

⑤ **投資的経費の1億円削減**  
一般財源の投資的経費(道路や公

共施設の建設などに使うお金)は毎年一律6億円で設定されています。しかし、負担を共有するという方針のもと、そこから1億円(17%分)を削減することを提案します。

⑥ **物件費を平成21年度から10%削減、平成25年度から20%削減**  
物件費(施設の光熱水費や消耗品の購入、委託料などに使うお金)は、合併関連事業などで公共施設が増加したこともあり、施設管理のための委託料が増加傾向を示してきました。そこで、平成21年度から平成24年度までに10%分の2億5千万円、平成25年度以降もさらに上積みを行い、合計20%の5億円の削減を行うことを提案します。

⑦ **議員報酬の総額20%削減**  
現在、議員定数は22人(欠員2人)

で、議員報酬の総額は約1億5千万円です。その総額の最低20%分、それ以上の削減を提案します。その額を捻出するには、議員定数22人の削減や、1人当たりの報酬の削減、その両者を組み合わせる方法が可能です。

### 篠山再生のために実現を

篠山再生市民会議は、財政破たんという状況から抜け出すために、財政上の数値を中心に議論を行いました。その結果、11月2日に酒井市長に提出した「篠山再生計画第1次答申」では、非常に厳しい歳出削減などを提言しましたが、これを実施することで財政破たんを回避できるという目標ができ、ひとまずほっとしています。ただ、この目標を実現するには、職員の皆さんにだけ負担を求めていくのではなく、市民の皆さんにも協力いただくことが必要になってくると思います。

ところで、この答申には、委員の皆さん1人ひとりによる篠山の再生を願う強い思いが込められています。ぜひとも、篠山の再生のためにこの答申が実現されることを期待しています。



篠山再生市民会議議長  
ながみねじゅんいち  
長峰純一さん

平成18年度

# 決算報告

平成18年度の篠山市の各会計決算が、12月に行われた市議会定例会で認定されました。皆さんに納めていただいた税金などが、この1年間でどのように使われたのかをお知らせします。

問い合わせ 総務部財政課 ☎5525114

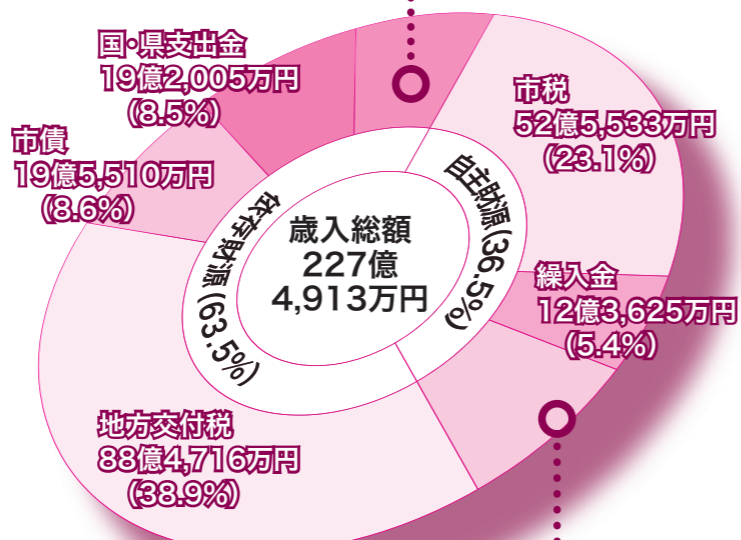
## 平成18年度決算の概要

市の財政は大きく一般会計（福祉や教育、道路の整備など、市政運営の基本となる会計）と特別会計（特定の歳入で特定の事業を行う会計）、企業会計（事業の収入で、その事業の経費をまかなう独立採算制の会計）に分かれています。

平成18年度決算の一般会計と特別会計、企業会計をあわせた総額は、歳入が392億4,985万円、歳出が390億1,272万円、差し引き2億3,713万円の黒字となっています（表1参照）。

## 一般会計の状況

一般会計は、歳入が



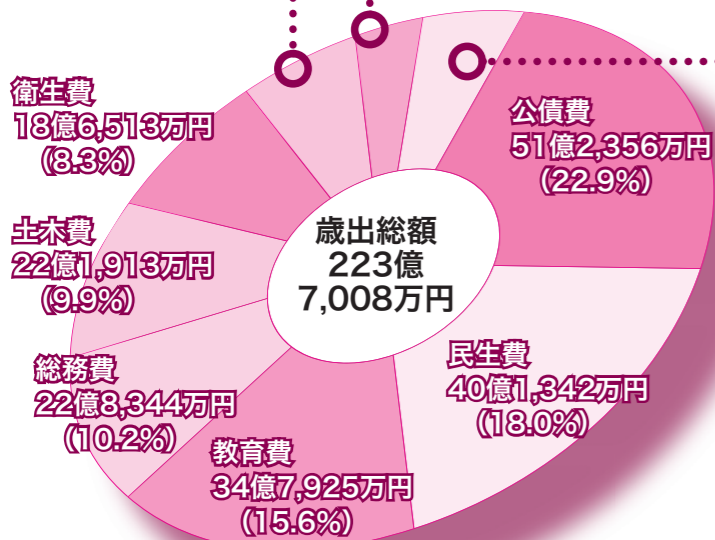
グラフ1 「一般会計歳入の内訳」

使用料・手数料	6億6,889万円	(3.0%)
諸収入	4億3,701万円	(1.9%)
分担金・負担金	3億9,181万円	(1.7%)
繰越金	2億7,415万円	(1.2%)
財産収入	3,191万円	(0.1%)
寄附金	1,904万円	(0.1%)

地方譲与税	6億4,286万円	(2.8%)
地方消費税交付金	4億2,829万円	(1.9%)
自動車取得税交付金	2億4,629万円	(1.1%)
ゴルフ場利用税交付金	1億6,107万円	(0.7%)
地方特例交付金	1億4,085万円	(0.6%)
配当割交付金	3,021万円	(0.1%)
株式等譲渡所得割交付金	2,754万円	(0.1%)
利子割交付金	2,207万円	(0.1%)
交通安全対策特別交付金	1,325万円	(0.1%)

農林水産業費  
13億4,429万円  
(6.0%)

諸支出金  
8億4,076万円  
(3.8%)



グラフ2 「一般会計歳出の内訳」

消防費	7億1,912万円	(3.2%)
商工費	2億3,680万円	(1.1%)
議会費	2億617万円	(0.9%)
災害復旧費	3,011万円	(0.1%)
労働費	890万円	(0.0%)

## 特別会計・企業会計の状況

特別会計には、国民健康保険事業や下水道事業など10の会計があります（表1参照）。基本的には独立した会計として処理していますが、経営内容によっては一般会計から「繰入金」という名の「持ち出し」を行っています。一方、特別会計の利益の一部を一般会計に繰り入れも行っています。

また、下水道、農業集落排水事業では、一般会計と同じように市債を借り入れ、借金の返済も行っています。このほか、住宅資金、宅地造成事業では赤字決算となっていますが、これは貸付金の収入が少なかったことや不動産の売り払いが進まなかったことが原因です。

企業会計には水道事業、農業共済事業があります（表1参照）。平成18年度の水道会計は2億926万円の損失がありました。これは、借金である企業債の返済金が3億3,474万円あったことが大きく影響しています。

## 平成18年度主な事業

西部学校給食センターの建設	7億7,418万円
清掃センターストックヤードの施設整備	1億7,577万円
消防署東出張所の整備と高規格救急車の配備	6,142万円
心身障害者通所施設への補助	4,837万円
管隣保館の改修	4,408万円
のじぎく兵庫国体の開催	2,178万円
ALT（外国人指導助手）の配置	2,058万円
市営駐車場の管理委託	1,790万円
ハザードマップの作成	642万円
丹波篠山黒まめ検定委員会の設置ほか特産振興対策	667万円

表1 「平成18年度歳入・歳出決算額」

会計名/区分	歳入(A)	歳出(B)	歳入歳出差引額(A-B)
一般会計	227億4,913	223億7,008	3億7,905
特別会計	150億3,487	149億7,314	6,174
住宅資金特別会計	3,097	5,692	△2,595
宅地造成事業特別会計	8,860	1億8,477	△1,987
下水道事業特別会計	12億3,564	12億2,902	662
農業集落排水事業特別会計	9億5,467	9億5,059	408
公営駐車場事業特別会計	6億4,395	6億4,168	227
公営駐留事業特別会計	755	755	0
診療所特別会計	8,665	8,579	86
観光施設事業特別会計	4,858	4,858	0
国民健康保険特別会計	40億932	40億792	140
老人保健特別会計	1億5,349	1億5,339	10
介護保険特別会計	48億8,511	48億7,780	732
介護保険特別会計	28億6,780	27億8,289	8,492
介護サービス事業	2,253	2,253	0
企業会計	14億6,585	16億6,950	△2億365
水道事業会計	13億5,281	15億6,207	△2億926
農業共済事業会計	1億1,304	1億734	561
合計	392億4,985	390億1,272	2億3,713

※千円単位を四捨五入して表示しています。  
※企業会計は複式簿記による処理になりますが、分かりやすくするために収益を歳入、かかる費用を歳出として利益（損益）のみを計上しています。

## 財政用語の解説

### 【歳入】

- **自主財源** 地方自治体が自ら調達できる収入
- **依存財源** 国や県の基準に基づいて、割り当てられる収入
- **市税** 市民の皆さんから納めていただくお金
- **繰入金** 会計間や基金(貯金)などから、資金を受け入れるときのお金
- **諸収入** 市税の延滞金、預金利子、雑入などのお金
- **地方交付税** 地方自治体が一定水準の行政サービスを提供できるよう、国から交付されるお金
- **市債** 必要な事業を行うために、国や金融機関から借り入れるお金
- **国・県支出金** 市が行う仕事に対し、国や県から支給されるお金
- **地方譲与税** 国の税金から、一定の基準で配分されるお金

### 【歳出】

- **公債費** 市の借金を返済するお金
- **民生費** 福祉の増進に使うお金
- **総務費** 行政全般の事務に使うお金
- **土木費** 道路や河川、市営住宅の整備などに使うお金
- **衛生費** 市民の皆さんの健康づくりや、ごみ処理などに使うお金
- **農林水産業費** 農業や林業の振興のために使うお金
- **諸支出金** 基金の積み立てに使うお金
- **労働費** 職業訓練などに使うお金



ささやまサン

市の財政状況を身近に感じることができるようになるよう、  
お店の経営に置き換えて見てみましょう。



ひょうごサン

# 決算状況をお店の経営に

## 置き換えてみると

### 篠山市と兵庫県を比較

この決算状況は、普通会計ベース(統一的な基準で整理)と比較できるようにした統計上の会計でまとめています。篠山市の会計でいうと、一般会計、住宅資金・診療所・観光施設事業特別会計が対象となります。

### お店の経営状況は

平成18年度の篠山市と兵庫県の決算額(兵庫県は決算見込額)を平成17年に実施された国勢調査の人口で割って1人当たりの金額を算出し、年間の内容にいくら使ったのか分かるようにしました。

また、「ささやまサン」(篠山市)と「ひょうごサン」(兵庫県)という、それぞれのお店の経営に置き換えて財政状況を見てみます。市や県には、国から交付税や補助金が交付されているとともに、普通会計以外の会計(下水道などの特別会

計や水道などの企業会計)があります。これらをお店がチェーン店に加盟し、本店からの資金や物品の援助を受けていることにし、通信販売部門も併せて経営していることと仮定します。

### 経営の改善に向けて

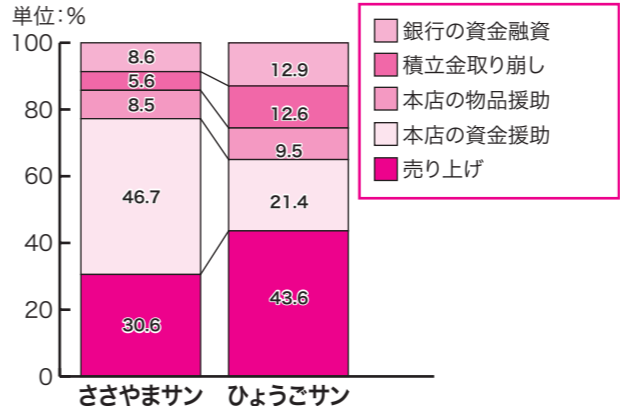
「ささやまサン」のお店は、店舗購入時のローン返済(公債費)が大きいに、古くなった店舗を改修(投資的経費)したために、新たに銀行から融資(地方債・市債)を受けています。また、収入の半分以上を本店からの支援に頼っている状態です。しかし、その支援も減少してきていることから、賃金(人件費)や仕入れ(物件費)などにかかる経費を見直し、通信販売部門も早く軌道に乗り、経営

がうまくいくように努力しています。一方、「ひょうごサン」は震災時の改修費がかかり、銀行からの融資を受けなければならなかったため、ローンの返済額が大きくなっています。その上「ささやまサン」同様、本店からの支援が減少し、今まで積み立ててきた預金を取り崩し(繰入金)ながらの経営となっています。

【収入の部】 単位：円

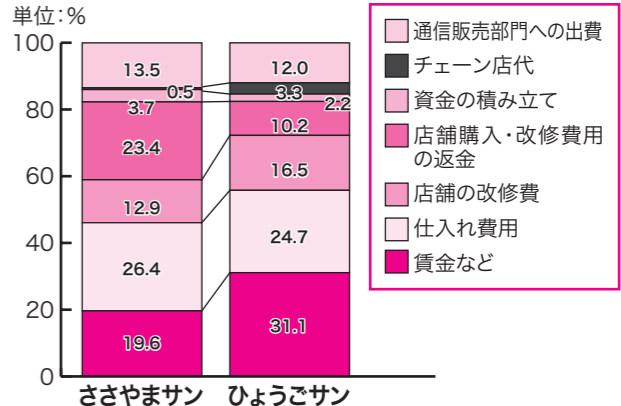
区分(内容)	ささやまサン	ひょうごサン
市税ほか(売り上げ)	152,800	159,200
交付税ほか(本店の資金援助)	233,400	78,000
補助金(本店の物品援助)	42,500	34,500
繰入金(積立金取り崩し)	28,000	46,000
地方債・市債(銀行の資金融資)	43,200	47,100
合計	499,900	364,800

\*収入と支出において、それぞれの内容が占める割合を下記のグラフは比較しています。



【支出の部】 単位：円

区分(内容)	ささやまサン	ひょうごサン
人件費(賃金など)	96,700	113,300
物件費など(仕入れ費用)	130,000	89,900
投資的経費など(店舗の改修費)	63,300	60,000
公債費(店舗購入・改修費用の返金)	114,900	37,000
積立金(資金の積み立て)	18,200	8,100
投資・貸付金(チェーン店代)	2,600	12,200
繰出金(通信販売部門への出費)	66,300	43,700
合計	492,000	364,200



## お店の経営状況

# 篠山市の市債(借金)と

## 基金(貯金)の残高をみると

合併後の年度ごとによる市債と基金の残高状況を  
お知らせします。

### 市債の現況は

家庭の家計簿の中で、借金にあたるものが市債です。市債残高は平成18年度末現在で、1,084億円(下表参照)。市民の皆さん1人当たりになると、113.9万円となります(市債の返済財源として地方交付税が上乘せし配分されるため、実質的に

は市債の約40%が市の負担となります)。

市債は、主に道路や公共施設の建設に対して当てられ、合併以後、篠山市の基盤をなす工事を数多く行ってきました。では、なぜ借金をして仕事を必要があるのかという点、それは財政負担の年度調整を進めることができるという利点があるからです。大

きな工事でも多額の予算が必要になり、それを1年間で負担するとすると、他の必要な事業や工事を縮小するか、やめるしかありません。利子は発生しますが、分割して計画的に支払うことで、他の事業や工事も並行して行っていくことができます。

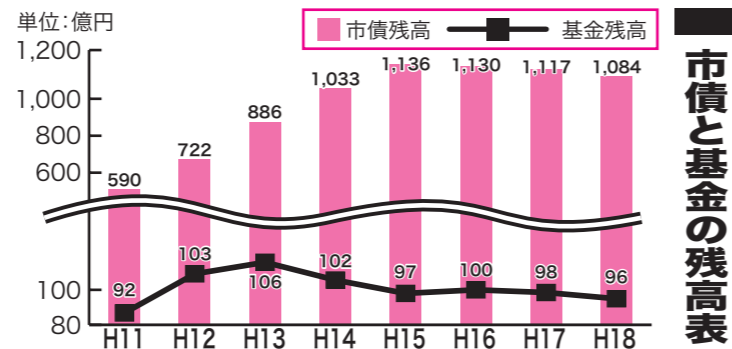
現在、市債は平成15年度をピークに少しずつ残高を減ら

### 基金の現況は

一方、家庭の家計簿の中で、貯金にあたるものが基金です。基金残高は平成18年度末現在で、86億円(下表参照)。市民の皆さん1人当たりになると、20.7万円となります。基金はほぼ横ばい状態ですが、近年は微減傾向にあります。

### 本当の行政改革はここから

今後、市債の残高は減少していきませんが、行政改革を進め、基金の取り崩しを少しでも抑えていくことが課題となっています。



## 数字から見る財政状況

ここでは財政力指数、経常収支比率、実質公債費比率の3つから篠山市がどのような水準にあるのかをお知らせします。県内市町(29市12町)の平均値は、平成17年度数値と比較しています。また、順位づけは各市(29市中)で算出された平成18年の数値を用いました。

0.460

財政力指数 県内29市中25位  
県内市町平均値 0.692(平成17年度数値)

地方公共団体の財政力を示す指数で、1に近い(あるいは1を超える)と財政に余裕があるとされ、指数が低いほど地方交付税への依存度が高くなります。

97.2%

経常収支比率 県内29市中26位  
県内市町平均値 93.6%(平成17年度数値)

財政の柔軟性を表す指標です。家計に例えると、食費や家賃、ローンの返済など、毎月決まって払わなければならない経費の割合がどのくらい占めているかを表しています。この割合が高くなればなるほど、やりくりが苦しくなります。

高い数値となっているのは、合併したことで公共施設が多くなり、その維持管理費や地方債(借入金)の償還額が多いことなどが原因と考えられます。今後は施設の統廃合を含め、コストの縮減に努めていきます。

17.9%

実質公債費比率 県内29市中13位  
県内市町平均値 19.3%(平成17年度数値)

公債費が財政に及ぼす負担を表す指標です。18%までが健全化のラインといわれています。合併以前からの懸案であった清掃センターなどの大型事業の実施で、借り入れた地方債の償還額が増加し、また、下水道の整備に伴う地方債の償還額も増えていることから、数値が悪化することが見込まれます。今後も事業精査による地方債の新規発行の抑制や、地方債を予定の償還期日より早く返済するなど、財政の健全化に努めていきます。